

IV. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 地域社会との連携

A-1 自己点検・評価の適切性

《A-1 の視点》

A-1-① 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源の社会への提供、(学部独自のプログラムを含む)

(1) A-1 の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

(2) A-1 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

【大学独自の講座】

(ア) プチ講座

中高年向けに偏りがちな公開講座を、OL にターゲットを絞り「プチ〇〇学」として平成 14(2002)年から開講を続けてきた。この講座は、平成 22(2010)年 2 月～3 月に「プチ心理学 8」、平成 22(2010)年 7 月～8 月に「プチカラダ学」を開講した後、一旦中断した。その間に、本学栄サテライトキャンパスは、手狭だった矢場町から栄の中日ビル 9 階に移転した。そして、平成 25(2013)年 10 月に「プチ心理学 9」を開講する運びとなった。

表 A-1-1

テーマ	開講年月	開講回数	講師数	受講者数
プチ心理学 8	平成 22(2010)年 2 月～3 月	6	3	97
プチカラダ学	平成 22(2010)年 7 月～8 月	6	1	79

※「プチ心理学 8」の各テーマ定員 20 名、「プチカラダ学」の各テーマ定員 16 名。

(イ) 健康運動倶楽部

健康づくり事業を通して地域・社会貢献に寄与することを目的に平成 22(2010)年秋に健康開発支援センターが立ち上がった。その具体的な活動のひとつが、平成 23(2011)年 4 月から名古屋キャンパスで始めた「健康運動倶楽部」である。大学近隣に居住の方々が気軽に楽しく健康づくり仲間づくりができる機会や場所を設けることが目的である。ゆるやかな倶楽部組織とし、大学関係者及び一般参加者が倶楽部員となり、必要な施設・設備、労力、運営費等をお互いに提供し、共同して運営に当たっている。

これまでに行ってきた「なごや健康カレッジ『健康学ノススメ』」や公園体操の参加者が運動を継続していく場、また参加者同士の交流の場とコミュニティ形成を目指している。

名古屋キャンパスと同様の「健康運動倶楽部」を三好キャンパスでも平成 24(2012)年 10 月から始めている。この健康運動倶楽部は登録制として、登録料 500 円を登録時に徴収、受益者負担を前提に毎回受講料 500 円を徴収し、講師料に充てている。名古屋キャンパスでは、平成 25(2013)年 9 月現在、登録者が 109 名、三好キャンパスで

は 70 名になっている。この登録者たちが自分の都合にあわせて受講する。平成 23(2011)年度は、89 回の開講でのべ 1,051 名が受講、平成 24(2012)年度は名古屋キャンパスが 92 回の開講でのべ 1,501 名、三好キャンパスが 22 回の開講で 373 名が受講している。名古屋キャンパスは登録者（受講者）が多く、9 時半からと 11 時からの 2 回開講しているため開講数が多くなっている。

また、運動指導者は本学卒業生であり、健康開発支援センター指導員として、健康運動倶楽部以外にも学外で運動指導をしている。この卒業生たちは在学時から「なごや健康カレッジ『健康学ノススメ』」や公園体操に参加し実践活動を重ね、卒業後は運動指導者として企業で働きさらに経験を積み、母校で運動指導をすることになった。地域の方々への運動指導に卒業生が携わることの意義は大きく、在学中の後輩たちにも好影響を与えている。

健康運動倶楽部の受講者はこれまでの「なごや健康カレッジ『健康学ノススメ』」の受講者も少なくなく、「なごや健康カレッジ『健康学ノススメ』」終了後の運動継続の場として活用され非常に喜ばれていることが数字にも表れている。知人への紹介・勧誘の多さから当人の満足度の高さがわかり、このクチコミ効果は非常に大きい。これは、3 年目になってもいまだに新規登録者が後を絶たないことからわかる。地域・社会貢献に寄与するという目的が達成されていると考えられる。

三好キャンパスの健康運動倶楽部が会場としている 5 号館ダンス室は授業での使用頻度が高く、春学期・秋学期ごとに健康運動倶楽部の開講曜日や時間を変更しなければならない。今のところは開講曜日や時間の変更になっても受講者数に大きな変化はないように思われるが、曜日と時間が定着すればもっと効果が望める。健康運動倶楽部では、日々の運動の目標となるよう登録者を対象としたツアーを年に数回程度実施し、そのツアーに元気に参加し、しっかり歩けることを目指している。バスで出かけるツアーはキャンパス間の交流など仲間づくりもできている。本学と特定非営利活動法人飛騨自然学園飛騨インタープリターアカデミーとは健康増進及び自然教育連携事業に関する協定を平成 22(2010)年 12 月に結び、生物多様性・学びの森ツアーを毎年実施している。

表 A-1-2

ツアー	実施時期	行き先	参加人数
第 1 回生物多様性・学びの森ツアー	平成23(2011)年 5月27日-28日	平湯・上高地	24
「ひるがの高原ウォーク」ツアー	平成 23(2011)年 9月 24 日-25 日	ひるがの高原	19
「郡上せせらぎ街道。紅葉ウォーク」日帰りツアー	平成 23(2011)年 10 月 28 日	郡上市せせらぎ街道	35
「初冬の海上（かいしよ）の森を歩く」	平成 23(2011)年 12 月 10 日	瀬戸市海上の森	33
相生山緑地自然散策	平成 24(2012)年 5 月 22 日	天白区相生山緑地	27
伊吹山自然散策	平成 24(2012)年 7 月 17 日	滋賀県伊吹山	48
第 2 回生物多様性・学びの森ツアー	平成 24(2012)年 8 月 21 日-22 日	平湯・上高地	15
「ひるがの高原ウォーク」ツアー	平成 24(2012)年 9 月 29 日-30 日	ひるがの高原	19

名古屋大学ウォーキング	平成 24(2012)年 9 月 26 日	名古屋大学	21
秋の東山植物園散策	平成 24(2012)年 11 月 7 日	東山植物園	27
東山植物園散策	平成 25(2013)年 2 月 26 日	東山植物園	28
第 3 回生物多様性・学びの森ツアー	平成 25(2013)年 7 月 29 日・30 日	平湯・乗鞍岳	29
「ひるがの高原ウォーク」ツアー	平成 25(2013)年 9 月 28 日・29 日	ひるがの高原	18

【学部独自のプログラム】

(ア)経営学部プログラム

『防災ボランティア活動』

防災ボランティア活動としては、経営学部の学生による消防団活動（愛称名：ちいむ ともいき）がある。平成 22(2010)年度に締結したみよし市との包括協定の中で、災害時の後方支援活動を中心とする機能別分団として、市条例の変更による 30 名の枠をみよし市消防団東海学園大学機能別分団として提供され、平成 23(2011)年 3 月に発足した。

公式な対外活動としての定例参集活動は年間 4 回である。その内容は、4 月第一日曜日の消防入団式、5 月下旬開催の水防訓練、8～9 月に実施の市内総合防災訓練そして 1 月第一日曜日実施の出初・観閲式である。それ以外に、尾三消防本部主催による鉄道事故等の大事故対策への訓練に被災者役としての参加がある。日ごろの地域連携活動を評価されて、平成 25(2013)年 10 月 17 日実施の第 21 回女性消防操法大会（隔年開催：横浜市で開催）に愛知県代表として女子学生 7 名が参加した。女子学生のための編成による消防隊出場は大会 42 年間を通じて初回とのことであり、学生による機能別分団による消防操法実施も初めてと聞いている。

学内活動としては、消防団員登録学生は全員、応急手当普及員資格を取得し、本学経営学部入学 1 年生対象の基礎救命（1 時間半）の講師として指導を行っている。また、みよし市より貸与された B 級可搬ポンプによる毎月 1～2 回程度の放水訓練を学内で実施している。

『防犯ボランティア活動』

防犯ボランティア活動としては、地元の豊田警察署の指導を受けて平成 23(2010)年 4 月に防犯ボランティア団体として東海学園大学 TOMOIKI Official Patrol Squad（通称名：TOPS：トップス）を立ち上げた。活動は、毎週 3 日間（水・木・金曜日、午後 3～4 時の 1 時間）に地元小学校（三好ヶ丘小学校・黒笹小学校）1・2 年生対象の下校時見守りパトロールを実施している。不定期には大学が保有する青色回転灯装備車（青パト）による市内巡回パトロールも実施している。パトロール以外には、豊田警察署主催等の市民広報行事への学生派遣も行っている。大学隣接地の自治区からの要請で、みよし市小学生ドッジボール大会への練習指導（平成 25(2013)年 4 月～6 月の土曜日 7 回、1 回 3 時間）を 1 回 7～8 人の派遣で実施し、12 月初旬実施の子ども運動会へは 11 名を派遣することも決めている。地元との連携強化の上から市民との共同活動にも力を入れている。これらの活動が評価され、平成 25(2013)年 1 月 9 日に

は豊田警察署長感謝状が授与された。

『SMARP について』

SMARP とは、「スマート・ビジネス・プロジェクト」の意味で、高校生・大学生・大学院生・一般社会人から作文・論文・調査報告等を募集して、優秀作品を公表・表彰し、大学ホームページを通じて知的情報の発信と、知識・経験の相互交流をめざすイベントである。経営学部が主催し、愛知県教育委員会、みよし市教育委員会、ならびに中日新聞社の後援を得て実施している。地域を限定しておらず、全国から応募がある。

プロジェクトは「高校生の部」と「大学生・大学院生・社会人の部」に分れる。

高校生の部では、高校行事、部活・サークルなどの課外活動、ボランティア、生活・趣味などさまざまな体験や経験を作文・記録等の形でまとめてもらうもので、教師・友人・社会人・保護者との共同制作も可として、きわめて自由なものとしている。顕彰として、優秀賞、愛知県教育委員会賞、中日新聞社賞等を選んでいる。

社会人の部も同じく自由度が高く、応募作品は政治経済・ビジネス・社会・スポーツ・福祉・アートなど多様なジャンルから選んでもらい、形式もエッセイ・論文・調査報告など自由であるが、内容に「ビジネス・ビジネスマネジメント・経済」の要素が含まれることが必要である。上限は 400 字詰原稿用紙換算 400 枚程度としており、こうした「大作」の応募もある。経営学部専任教員の審査により、最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名ほかを選考し、優秀作品は報告集(PDF)に掲載するほか、次年度以降の本学紀要社会科学編へ投稿できる特典がある。

詳細は本学公式ホームページに SMARP 専用ページを設けて周知している。

(イ)人文学部プログラム

『マンガ文学賞』

人文学部では、創造表現、言語、文化を重視しており、文学やマンガの研究・創作指導を通じて「創造力」と「表現力」を養う授業を導入している。そのような教育の一環として、またキャンパス内の活性化を図る目的もかねて、平成 22(2010)年度に「マンガ文学賞」を創設した。この賞は、東海学園大学の全学生を対象に、小説とマンガの作品を募集し、優秀な作品を表彰するものである。賞は、大賞（小説部門・マンガ部門各 1 作品）、優秀賞（各 2 作品）、佳作となっており、これまで 3 回行われた。

さらに、人文学部のこのような教育を広くアピールするために、広報活動の一環として、平成 23(2011)年度に「高校生マンガ文学賞」を創設して、毎年全国の高校生からマンガと小説の作品を募集している。この賞はこれまで 2 回行われ、第 2 回からは、マンガ部門にイラストの募集も加えた。賞の企画・立案・運営は人文学部の教員によって構成されたマンガ文学賞運営委員会が行い、広報は入試広報課と運営委員会が連携して行っている。選考は運営委員会を中心に行うが、特別選考委員としてマンガ雑誌の編集者など学外からも委員を招いている。マンガ、小説、創作、その他アニメなど、文学やヴィジュアルな文化に興味のある高校生が多数投稿している。

『ボランティア活動』

学生のボランティア活動を通じての社会貢献については、平成 24(2012)年度及び 25(2013)年度に、多文化共生体験実習（多文化共生コース）によってボランティア活動など地域での貢献制度が設けられていた。公益財団法人仏教伝道協会主催による BDK 復興支援学生ボランティア活動や東京インターカレッジコープによる東日本大震災ボランティアへの参加や、東海北陸車いす友の会集会や国際会議へのスタッフとして加わるなど、多面的な活動に参加している。

(ウ)健康栄養学部プログラム

『栄養相談』

管理栄養学科を設置した平成 16(2004)年以来、大学祭（名古屋キャンパス）に来場の地域住民、学生などを対象に、1 年生が「パネル栄養相談」、2 年生が「対面栄養相談」を行ってきた。「パネル栄養相談」は既に 12 回目、「対面栄養相談」は 11 回目となり。大学祭恒例の行事になっている。

具体的には、相談者の食や栄養に関する疑問や質問に学生が授業の中で学んだ知識を活用したり、資料を基に調べたりして対応する形態であるが、教員がサポート役として会場に待機する形で進めている。

『学部イベント』

平成 22(2011)年度より、1・2 年生を対象とした管理栄養士養成の導入教育の一環として、学部で統一テーマのもと学部イベントを行ってきた。毎年、タイムリーな統一テーマを決め、「基礎演習」「栄養科学演習」の授業の中で調べ学習を行ってきた。

それとリンクさせ、社会に向けての情報発信として、講演・フォーラム・コンテスト・展示などを組み合わせたイベントを年々開催している。5 年間の実績をまとめると表 A-1-3 のとおりである。

平成 22(2010)年には地域の NPO 団体の人たちと共同で「COP10 パートナシップ事業 ー東海学園大学フォーラムー」を行い、多くの地域の人たちの参加を得て一大イベントを成功させた。

平成 23(2011)年には、東北大震災が起きたことから、「考えましよう 災害時の食事」というテーマでイベントを行い、その中で「災害食コンテスト」の募集を行い、多数のコンテスト参加者があった。

平成 24(2012)年度の「スポーツ栄養」をテーマにしたイベントは、スポーツ時に必要な栄養・食事についてのパネル展示や講演会を開催し、一般に向け情報提供を行ったものであるが、大学オリジナルのスポーツドリンクを開発し、その試飲会や、スポーツ選手の弁当コンテストを開催し、広く一般の方々の参加を得た。

平成 25(2013)年度は「私の食生活・健康は大丈夫？」のテーマでイベントを行い、多数の参加者があったが、ヘルシー弁当コンテストでは応募作品総数は 49 作品に上った。さらに、高齢者向け弁当部門が 11 作品、1 人暮らし向け弁当部門が 30 作品、地産地消（伝統野菜）弁当部門 7 作品があった。

これらのイベント開催においては、平成 23(2011)年から毎年、全国栄養士養成施設協会、

日本フードスペシャリスト協会、及び本学からの助成を受けている。

いずれの企画においても社会的に関心の高いテーマを選んで実行していること、企画段階から授業とリンクさせながら教育の一環として進めていることは、評価できると考えている。

表 A-1-3

年度	イベントテーマ	概要	応募等
平成 22 (2010)年度	「COP10 パートナースhip事業 ～東海学園大学フォーラム～」 平成 22(2010)年 9 月 25 日(土)	COP10 パートナースhip事業として、東海学園大学フォーラムを開催した。内容は、パネル展「生物多様性と食 ～食資源・食生活・食文化～」、シンポジウム「生物多様性と私たちの食生活」、食文化体験「米菓子おこしもん」、展示と試食、ビデオ上映など。盛況裏に終了し、一部の内容がテレビニュースで報道された。	
平成 23 (2011)年度	「考えましょう 災害時の食事」 平成 23(2011)年 10 月 9 日 (日)	管理栄養士としての社会における役割を考える機会として、災害時の「食」について考え、啓蒙啓発することを目的に実施した。	災害食コンテスト
平成 24 (2012)年度	「スポーツを考える」 平成 24(2012)年 10 月 7 日 (日)	スポーツ栄養についての情報発信と、スポーツ時の食事の提案としてスポーツドリンクの開発及びスポーツ選手の弁当コンテストを開催した。	勝ち弁コンテスト
平成 25 (2013)年度	「私の食生活・健康は大丈夫？」 平成 25(2013)年 10 月 13 日 (日)	食生活と健康のかかわりや、食品と健康に関して情報発信し、多くの人が食の大切さや安全性を考える機会となることを目的とした。	ヘルシー弁当 コンテスト

【地域社会との協力関係が構築されている講座】

(ア)区民講座

これは名古屋市天白区生涯学習センターとの共催で開講し「東海学園大学公開講座」として定着し、継続開講しているものである。平成 20(2008)年に人文学部に発達教育学科が設置されたこともあり、平成 21(2009)年度は子ども向け講座を開講した。たいへん好評であったため平成 22(2010)年度、平成 23(2011)年度と子ども向け講座を続けて開講した。発達教育学科の学生がスタッフとして参加し、学生にとっても貴重な体験の場となった。平成 24(2012)年度の「体によい食品とは？」では、講義に続き、調理実習を行った。中高年の男女混在の講座・実習となったが好評で、常時開講やリピートを希望する声が多かった。

表 A-1-4

テーマ	開講時期	実施回数	講師数	のべ受講者数
みんなでつくろう！ 子どもワークショップ	平成 21(2009)年 10 月	3	1	39
秋となかよし ～あそぶ・つくる・たべる	平成 22(2010)年 10 月	2	1	28
秋となかよし ～みつける・あそぶ・たべる～	平成 23(2011)年 11 月	3	1	34
体によい食品とは？	平成 24(2012)年 10 月	4	1	78
ポールウォーキングで元気度急上昇	平成 25(2013)年 10 月 11 日	4	1	
子どもとメディア ～テレビ・ゲームとの付き合い方を考えよう～	平成 26(2014)年 2 月 18 日	1	1	

(イ) なごや健康カレッジ

名古屋市との連携事業で平成 17(2005)年度から始まった「健康学ノススメ」は、平成 21(2009)年度は「健康学ノススメⅤ」、平成 22(2010)年度は「健康学ノススメⅥ」、平成 23(2011)年度は「健康学ノススメⅦ」、平成 24(2012)年度は「健康学ノススメⅧ」と平成 25(2013)年度は「健康学ノススメⅨ」と開講を継続している。今では名古屋市内全 16 区で開講されるようになった「なごや健康カレッジ」だが、試行段階の平成 17(2005)年度から開講してきた本学の「なごや健康カレッジ『健康学ノススメ』」は毎年度定員を大きく上回り、受講者が抽選で決まる人気講座になっている。学生が運動指導するスタッフとして参加すること、運動だけでなく様々なプログラムを組んでいること、半年間にわたる開講期間の長さなどが、開講当初から変わっていないこともその要因と考えられる。

表 A-1-5

開講時期	タイトル	実施回数	講師数	のべ受講者数
平成 21(2009)年 10 月～平成 22(2010)年 3 月	健康学ノススメⅤ	21	26	522
平成 22(2010)年 10 月～平成 23(2011)年 3 月	健康学ノススメⅥ	19	22	571
平成 23(2011)年 10 月～平成 24(2012)年 3 月	健康学ノススメⅦ	19	19	485
平成 24(2012)年 10 月～平成 25(2013)年 1 月	健康学ノススメⅧ	14	15	342
平成 25(2013)年 10 月～平成 26(2014)年 1 月	健康学ノススメⅨ	13	13	

(ウ) トワイライトスクール

名古屋市が行っている、放課後に学校施設を開放し、学年の異なる児童たちが一緒に遊んだりするトワイライトスクールである。学生の参加は本来、個人で申し込み手

続き等を行うが、本学名古屋キャンパス近くに位置する名古屋市立原小学校のトワイライトスクールには、大学が学生の参加人数をとりまとめ、報告・連絡することにより、原小学校と本学との関係を深め信頼関係を築いている。平成 20(2008)年度の人文学部発達教育学科設置、平成 24(2012)年度の教育学部設置により参加学生はかなり増加し、多い月にはのべ 50 名もの学生が参加している。三好キャンパスに所属する学生の参加もある。

(エ)その他のイベント参加

『ニュースポーツフェスティバル』

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団・愛知県レクリエーション協会等が行う「ニュースポーツフェスティバル」に T3 (Tokaigakuen Trainer Team) の学生が参加し、一般参加者にバランスボール等ボール運動の指導を行っている。家族連れを中心に例年 500 名を越える参加者が体験する。

表 A-1-6

名称	開催時期	開催場所	内容の概略
ニュースポーツフェスティバル	平成 21(2009)年 10 月 18 日 平成 22(2010)年 11 月 3 日 平成 23(2011)年 10 月 16 日 平成 24(2012)年 10 月 14 日 平成 25(2013)年 10 月 27 日	愛・地球博記念公園	モリコロパーク大芝生広場で学生がバランスボール等ボールを使った運動を指導

『ポールウォーキング』

上半身も使い効果的に運動できるポールウォーキング教室を三好キャンパスの花まつりや大学祭にあわせて開催している。参加者は毎回 50 名前後。学生も指導スタッフとして参加し、実践活動の場ともなっている。また異世代間の交流もはかれる場となっている。平成 24(2012)年からはみよし市との包括協定の講座として行っている。

表 A-1-7

名称	開催期日	開催場所	内容
ノルディックウォーキング体験 in 東海学園大学	平成 23(2011)年 4 月 6 日 平成 24(2012)年 4 月 7 日	本学三好キャンパス	「花まつり」開催日に近隣住民（中高年者向け）を対象としたノルディックウォーク体験教室
ポールウォーキング教室	平成 24(2012)年 10 月 27 日	本学三好キャンパス	大学祭開催日に、近隣住民（中高年者向け）を対象としたポールウォーキング教室
ポールウォーキング in 花まつり	平成 25(2013)年 4 月 6 日	本学三好キャンパス	「花まつり」開催日に近隣住民（中高年者向け）を対象としたポールウォーキング教室

『ウィラブエクササイズ』

平成 24(2012)年から運動指導者として活躍する本学卒業生が指導者をつとめる中高年向けの運動教室をオープンキャンパス時に開講している。平成 25(2013)年からは名古屋キャンパスでも新体育館で開講した。

『公園体操』

三好キャンパス近くの三好ヶ丘桜公園で、平成 25(2013)年 4 月から学生たちが公園体操を行っている。この 4 月から 7 月までは毎週月曜日の 9 時から 10 時、公園の遊具を使ったトレーニングやポールウォーキングなど準備・片付けはもちろん、その日の運動メニューも学生たちが考える。真夏真冬、雨の日を除いて継続するが、開催曜日は授業時間割により変更する。平成 16(2004)年に名古屋キャンパスに人間健康学部が設置されてから、緑区の大清水西公園や乗鞍公園、天白区の城下公園などで開催してきたが、人間健康学部人間健康学科（現スポーツ健康科学部）の三好キャンパスへの移転により、開催に適切な公園をさがし、新たに始めたものである。公園近くに住む参加者たちとの交流も回数を重ねるごとに深まっている。平成 25(2013)年度秋学期からは「スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業」のプログラムのひとつとして開催する。

『ボディフィットネス』

平成 23(2011)年前期（4 月 15 日～7 月 8 日、毎週金曜日 13：30～14：30、全 12 回）、後期（10 月 7 日～平成 24 年 1 月 6 日、毎週金曜日 13：00～14：40、全 12 回）の運動教室を天白区東部いきいき支援センター協力として、本学主催の健康体操教室を開講した。後期高齢者を対象とした介護予防教室だったが、定員の 30 名がすぐにいっぱいになったほど盛況だった。運動指導は本学健康開発支援センターの指導員（本学卒業生）が担当した。参加者の数名がこの体操教室終了後に本学の健康運動倶楽部に登録し運動を継続している。運動は継続が重要であり、本学が天白区東部いきいき支援センターに愛知県健康づくりリーダーを紹介し、講座の構築を支援、平成 24(2012)年 6 月、7 月に開講の運びとなった。健康づくりリーダーの方たちに活躍の場を提供した意義も大きいと思われる。

『いきいき通う日くらぶ』

毎月第一火曜日の夜 18 時から 1 時間、運動指導者として活躍する人間健康学部（現スポーツ健康科学部）の卒業生が名古屋キャンパスで近隣住民対象に運動教室を平成 22(2010)7 月から開講を続けている。

『短歌講座』

平成 17(2005)年に天白生涯学習センターとの共催で実施した東海学園大学公開講座「はじめての短歌」を受講後、参加者が講師に継続を希望し、毎月第 3 火曜日に自主的に開講を継続している。大学は場所を提供している。

平成 25(2013)年度は講師が在外研究中につき休止中である。

【スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業】

文部科学省受託事業として、愛知県教育委員会と連携して、平成 25(2013)年 10 月から実施する「スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業」のプログラム一覧は下記の通りである。

表 A-1-8

番号	プログラム名	場 所	対 象	開催時期・回数
1	公園体操	三好ヶ丘桜公園	中高年者	平成 25(2013)年 10 月 4 日～ 毎週金曜日、全 8 回 9 : 00～10 : 00
2	ボールウォーキング倶楽部	本学三好キャンパスグ ラウンド	中高年者	平成 25(2013)年 10 月 15 日～ 毎週火曜日、全 15 回 10 : 40～11 : 40
3	グラウンドゴルフ倶楽部	本学三好キャンパス多 目的広場	中高年者	平成 25(2013)年 10 月 16 日～ 毎週水曜日、全 15 回 8 : 30～9 : 30
4	大学祭ボールウォーキング教 室	本学三好キャンパス	中高年者	平成 25(2013)年 10 月 26 日 10 : 00～12 : 00
5	大学祭サッカースクール	本学三好キャンパスグ ラウンド	未就学児童 ～小学生	平成 25(2013)年 10 月 26 日 ①11 : 30～12 : 30 ②13 : 00～14 : 00
6	サイエンスプログラム 実践！iPadを活用したフォー ムチェック	本学三好キャンパス 5 号館	高校生	平成 25(2013)年 11 月 16 日 9 : 00～12 : 00
7	サイエンスプログラム 親子で学ぶスポーツとからだ の仕組み	本学三好キャンパス 5 号館	小学 4 年生 ～中学 3 年生	平成 25(2013)年 12 月 22 日 9 : 00～12 : 00
8	運動指導者向け 運動指導のための科学的基礎	本学三好キャンパス講 義室	健康運動指導士等の 運動指導者	平成 26(2014)年 2 月 8 日 ①14 : 00～15 : 00 ②15 : 10～16 : 10 ③16 : 20～17 : 20
9	サイエンスプログラム 速く泳ぐためには	本学三好キャンパス室 内プール	小学生～中学生	平成 26(2014)年 2 月 9 日 ② 9 : 30～11 : 30 ②13 : 00～15 : 00

また、この事業では企業と連携した事業もプログラムにあり、平成 26(2014)年 1 月 13 日にパークアリーナ小牧でトップアスリートによるスポーツ教室や子どもから高

年齢者まで参加できるスポーツ体験、障害者スポーツ体験、栄養・介護などの健康講座を設けるイベントが予定されている。

以上のすべてのプログラムに本学学生がスタッフとして参加、または参加予定である。

(2) A-1 の改善・向上方策（将来計画）

既存の講座・教室、自治体との連携は継続することにより、定着するものと考えられるので、地道に継続していくことが重要である。そして、既存のものだけにとどまらず、新たな開拓はもちろん必要不可欠である。

この10月から新たに始まるスポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業を起点に総合型地域スポーツクラブに発展させていく準備を進めている。

生涯学習委員会では、新たな講座構築が常に議論され、今後多彩な講座開講が期待できる。また近い将来名古屋キャンパスに完成する新図書館を活用し、サロンのような形で少人数講座シリーズで展開していきたい。

【基準 A の自己評価（まとめ）】

本学はキャンパスが三好キャンパス（愛知県みよし市）と名古屋キャンパス（名古屋市中区栄）の2か所に立地し、また名古屋市中心部（中区栄）のビルにサテライトキャンパスを置いている。そのため、みよし市、名古屋市、天白区など各自治体と連携して、多様な領域にわたって、地域に期待される社会教育面での貢献、市民との連携が可能であることは、本学の強みのひとつである。

JIHEE による前回の認証評価(平成 21(2009)年度)においても、若い世代を対象にした各種公開講座を、テーマに工夫を凝らして開講してきたこと、「健康づくり」「仲間づくり」をキーワードとするスポーツ・食生活などの分野で市民活動・自治体主催の活動に継続的に参加していることなどが、「優れた点」として高い評価を受けたが、その後もこれらの事業が挫折することなく継続・拡大されており、さらに三好キャンパスにおいては市民の安全・防災等の活動にも学生中心に積極的に関わる等、社会との関わりをさらに深めていることは、評価できると考えている。

これらは単にボランティア活動というだけでなく、市民の健康づくりプログラムなどにおいては多数の学生が指導の体験を積み重ねることになり、教育的効果も大きい。

また、学芸面でも「時代を越えた」発想を求める経営学部の「スマート・ビジネス・プロジェクト」や、教員スタッフに作家を擁することを活かした人文学部の「マンガ文学賞」に見られるように、学部主体のイベントが、全学的助成の下に展開されており、社会への発信を通じて、とりわけ高校生に大学の認知度を高めてもらうのに有効であると判断している。